



●人権推進課 ☎84-1228

令和7年度 第20回八頭町部落解放研究集会 開催

八頭町人権教育推進協議会、八頭町および八頭町教育委員会主催による、令和7年度 第20回八頭町部落解放研究集会が11月30日(日)に開催され、194人の参加がありました。

講師には関西大学 社会学部 教授 内田龍史さんをお迎えし、「部落差別の現状と課題」今後の展望と人権教育のあり方」と題し、お話をいただきました。今回の「人権のひろば」では、その講演の一部をご紹介します。



私は、関西大学で現代の部落差別問題を中心に、マイノリティ(少数民族)であるがゆえにマジョリティ(多数派)から見過ごされがちな差別・排除などの社会問題について研究しています。

社会にはマジョリティ(多数派)とマイノリティ(少数民族)があります。例えば日本においては日本人がマジョリティですし、外国人はマイノリティとなります。世の中のルールや「当たり前」は、実はマジョリティに合わせて作られています。マジョリティは優位な立場におかれやすいし、マイノリティは不利益を被ることが多い。社会は複雑で把握しにくいのに加えて、少数派であることでより見えにくくなっています。マジョリティにとっては当たり前で簡単にできることだが、マイノリティにとっては障壁等があり、困難な状況であるとき、マジョリティにはマイノリティの置かれている状況が分からず、「急いでいる」とか「努力不足」として見下すことがあります。そうしたことから「あの人たちは私とは違う」と線引きして、特定の人たちを遠ざけたり、見下したり、仲間外れにしたり、無視したりする行為が表れます。そういう状況にマイノリティは置かれやすく、これは世界共通に起きているのです。

このマジョリティ、マイノリティの関係は場所が変われば入れかわります。例えば日本人が外国に行けば、マイノリティになります。言葉や文化も分からず、差別を受けることもあるかもしれません。しかし、それでよいのでしょうか? 私たちが望む、あるべき社会と言えるでしょうか? どこで生きても、人が人として尊厳をもつて生きることができるような社会が望ましいのではないでしょうか? そのためには大切にされなければならない考え方が人権です。人権とは、この社会では認められるが、別の社会では認められないというのではなく、あらゆる社会で尊重され守られるべきものです。マイノリティが不利益を受けやすいのは、社会がそういう構造になっているからです。その社会の構造や仕組みをできるだけ、誰もが尊重されるように組み替えていくことが大切です。

部落差別の現状

近年、インターネットが普及して多くの人が利用しています。その中には本当のこともあります。しかし、実際には差別的な内容も含まれ、最近は正しい情報が非常に増えています。部落差別のことを知らない人が、インターネット等で差別的な書き込みを見て、その内容を鵜呑みにし、さらにそれを拡散する事が発生しています。「あそこは安全だから大丈夫」というポジティブな情報と「あそこは危ないから近づかない方が良い」というネガティブな情報では、どちらが記憶に残るかというと圧倒的にネガティブな情報です。人は不安な状態が嫌で、安心や安定を求める傾向があり、そのため、ネガティブな情報に対して危険や災難を回避しようとするために、より心に刺さると言われています。そしてそれを拡散してしまう。

私は学生達と大学の授業で被差別部落へ行き、お住まいの方々と交流することがあります。実際に交流するとネットに書き込まれたようなネガティブな情報とは違うことが分かります。しかし、実際に現地へ行き、確認する人はほとんど

どなく、書き込まれたネガティブな情報をそのまま信用してしまうようなケースが多いのではないでしょか。地域の人気が良いまちにしようとして取り組んでいるのに、このようなネガティブな情報が独り歩きし、拡散されてしまうことは問題だと思います。

寝た子を起こすな（タブー視）について

また「差別のことをむやみに問題にすべきではない」と主張する人もいます。「これは、「部落差別のことを知らなければ差別しないのだから、問題にしないで講演会や学習会等も開催しない方が良いのだ」という、いわゆる「寝た子を起こすな論」と言われているものです。しかし、インターネットが普及した今日では、いつでも差別書込み等に出会う可能性があります。もし予め学習していれば「これは偏見だ」と差別を見抜き適切に対応することができますが、正しく学習しないまま出会ってしまうことがあります。学習することで差別や偏見を広がらないようにし、さらには差別解消に向けて必要なことをと言えます。

なぜ差別が起きるのか？ 差別の引き金となるものには不安があります。人間はよく分からぬものに対して不安を覚えます。不安だから、遠ざけて差別したりするのならば、不安を取り除くことによって差別は解消する方向へ向かいます。よく分からぬところから不安が生じるのならば、分かるように学習すると良いのです。学習したり、出会つたり、経験することで不安を取り除くことができます。普通に生活していくなかでマイノリティの人々には気づかないで、あえて学ぶ、あえて出会う、あえて経験すること、その機会を如何に増やしていくかが非常に大事となります。

昔、天然痘という病気が流行りました。「これに対して、天然痘のワクチンを開発して、そのワクチンを接種すれば、天然痘にならないことが分かりました。やがて天然痘は撲滅されました。では、人権問題に関して何がワクチンかと言うと、予め部落差別について学ぶということです。学習することで差別や偏見を広がらないようにし、さらには差別解消に向けて必要なことをと言えます。



また、友人には差別しない可能性が高いことが研究で分かっています。友人の友人についても同様です。直接の接触がなくても、同じ集団に属している人が、異なる報を聞くだけでも、不安から生じる偏見を解消できる傾向があるのです。

学習、経験や部落差別解消への出会いを着実に重ねること、また一人ひとりが幸せに生きられるための基盤である「自分と他者の人権」を大切にすることが求められます。